



昔の美しい景観を取り戻す絶海池の清掃が地域に活性化もたらす

文部科学大臣賞 高知県 高知市立青柳中学校

市東部にそびえ、四季折々の自然が豊かな五台山(ごだいさん)。そのふもとに位置する同校では、校区の環境や歴史を生かした活動が盛んに行われている。2018年から開始した「絶海池(たるみいけ)クリーン大作戦」もその一つで、生徒が自主的に企画、作戦を立てながら実施し、地域住民にも広く協力を呼びかけている。

きっかけは、以前からポイ捨てごみが目立ち、「汚い」「臭う」といった絶海池の悪評だった。昔は水がきれい、水生生物もたくさんいたと、懐かしむ住民の話聞いた生徒は、一念発起。ごみを回収しやすいように池の水を抜いた第1回目のクリーン大作戦では、泥に埋まった自転車や金庫などの粗大ごみが出てくるなど、身近な絶海池が不法投棄の場所になっていたことが判明した。多くの住民の協力を得て、徐々にきれいになり、悪臭も消えて達成感を味わった生徒は、その後もクリーン大作戦を継続している。

活動に向けての準備や地域との連携体制は、年に数回開催する「開かれた学校づくり推進委員会」で決定。生徒の企画に対して、地域住民からは熱心なアドバイスが寄せられ、計画やアイデアが具現化する大切な場となっている。校区にある貴重な観光名所「濱口雄幸(おさち)生家記念館」で行う清掃活動は、そうした生徒と住民の話し合いの中から生まれた。

また、昔のような美しさを取り戻しつつある絶海池を地域の活性化につなげようと、生徒は1年間の活動の様子をまとめて「絶海池新聞」を制作、今年は校区全戸に配布した。

高知市高須ふれあいセンター長の藤崎忠男さんは、「美化活動を機に、朝の挨拶運動や地域行事、防災活動などでの地域交流が深まっています。高齢化が進む中、生徒とのコミュニケーションは町に活気をもたらします」と評価する。

来年、濱口雄幸は生誕150周年を迎える。高知県初の内閣総理大臣を生んだ地域を盛り上げようと、生徒は住民とともに手応えをつかみながら次なる目標へ向かう。



高知県高知市立青柳(あおやぎ)中学校

学校長：西澤 勇司(にしざわ ゆうじ)

生徒数：264名(2019年11月末現在)

住所：高知県高知市五台山 3923

電話：088-882-7471

アクセス：JR「高知」駅からクルマで約15分

写真上：ポイ捨てごみが浮いた絶海池、2番目：水を抜いて実施した絶海池クリーン大作戦、3番目左：開かれた学校づくり推進委員会で意見交換、右：住民と小中連携で挨拶運動、下：濱口雄幸生家記念館の清掃後、展示物と向き合う